

1 章 舗装工

- 1.1 不陸整正
- 1.2 路盤工
- 1.3 アスファルト舗装工
- 1.4 コンクリート舗装工
- 1.5 転圧コンクリート舗装工
- 1.6 連続鉄筋コンクリート舗装工
- 1.7 排水性アスファルト舗装工
- 1.8 透水性アスファルト舗装工
- 1.9 グースアスファルト舗装工
- 1.10 薄層カラー舗装工
- 1.11 橋面防水工
- 1.12 踏掛版工

1章 舗装工

1.1 不陸修正

1. 適用

アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の不陸修正に適用する。

2. 数量算出項目

路床及び路盤の不陸修正の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、補足材料の有無、補足材料平均厚さ、補足材料の規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料の規格	単位	数量	備考
不陸修正	○	○	○	m ²		

1.2 路盤工

1. 適用

アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を含む）に適用する。

2. 数量算出項目

下層路盤、上層路盤の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、平均厚さ、規格、平均幅員、瀝青材料種類・締固め後密度とする。

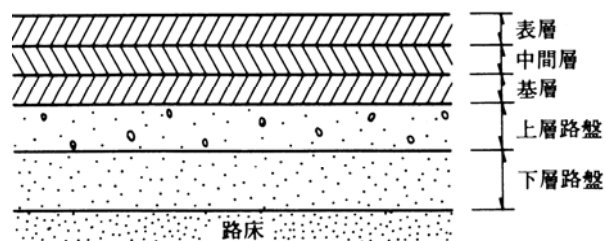
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	平均厚さ (mm)	規格 (材料)	平均 幅員	瀝青材料 種類・締固 め後密度	単位	数量	備考
下層路盤（車道・路肩部）		○	○	—	—	m ²		
下層路盤（歩道部）		○	○	—	—	m ²		
上層路盤（車道・路肩部）		○	○	○	○	m ²		
上層路盤（歩道部）		○	○	—	—	m ²		

(2) 平均厚さ区分及び規格区分

路盤の平均厚さ及び材料の規格（粒調砕石40～0、クラッシュラン40～0等）ごとに区分して算出する。

（アスファルト舗装の構成例）



項目	材料	平均厚さ区分
下層路盤 (車道・路肩部)	—	75mm 以上 125mm 以下
		125mm 超 175mm 以下
		175mm 超 200mm 以下
		200mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 400mm 以下
		400mm 超 425mm 以下
		425mm 超 475mm 以下
		475mm 超 525mm 以下
		525mm 超 575mm 以下
		575mm 超 600mm 以下
		600mm 超 625mm 以下
		625mm 超 675mm 以下
		675mm 超 725mm 以下
		725mm 超 775mm 以下
		775mm 超 800mm 以下
		800mm 超 825mm 以下
		825mm 超 875mm 以下
875mm 超 925mm 以下		
925mm 超 975mm 以下		
975mm 超 1000mm 以下		
1000mm 超 1025mm 以下		
1025mm 超 1075mm 以下		
1075mm 超 1125mm 以下		
下層路盤 (歩道部)	—	25mm 以上 75mm 以下
		75mm 超 125mm 以下
		125mm 超 175mm 以下
		175mm 超 200mm 以下
		200mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 400mm 以下
		400mm 超 425mm 以下
		425mm 超 475mm 以下
		475mm 超 525mm 以下
		45mm 以上 55mm 以下
		55mm 超 65mm 以下
上層路盤 (車道・路肩部)	瀝青安定処理材 (25) 瀝青安定処理材 (30) 瀝青安定処理材 (40) 再生瀝青安定処理材 (40) 路盤材 (各種)	65mm 超 75mm 以下
		75mm 超 85mm 以下
		85mm 超 95mm 以下
		95mm 超 100mm 以下
		25mm 以上 75mm 以下
		75mm 超 125mm 以下
	再生粒度調整碎石 RM-25 再生粒度調整碎石 RM-30 再生粒度調整碎石 RM-40 粒度調整碎石 M-25 粒度調整碎石 M-30 粒度調整碎石 M-40 路盤材 (各種)	125mm 超 150mm 以下
		150mm 超 175mm 以下
		175mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 300mm 以下
		300mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 425mm 以下
425mm 超 450mm 以下		
上層路盤 (歩道部)	—	75mm 以上 125mm 以下
		125mm 超 150mm 以下
		150mm 超 175mm 以下
		175mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 300mm 以下
		300mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
375mm 超 425mm 以下		

(3) 平均幅員区分

① 1. 4 m未満

② 1. 4 m以上

1.3 アスファルト舗装工

1. 適用

アスファルト舗装工における基層・中間層・表層及び縁石工におけるアスカーブに適用する。なお、アスファルト混合物が現地プラント方式の場合、アスファルト混合物の締固め後密度が1.90t/m³未満、2.50t/m³以上の場合を除く。

2. 数量算出項目

車道・路肩部、歩道部の別に基層、中間層、表層の面積を、アスカーブの延長をそれぞれ区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

3. 区分

区分は、基層・中間層・表層は平均厚さ、平均幅員、規格、瀝青材料種類とし、アスカーブは断面積、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	平均厚さ (mm)	平均幅員	断面積	規格 (材料)	瀝青材料種類	単位	数量	備考
基層	(車道・路肩部)	○	○	—	○	○	m ²		
中間層	(車道・路肩部)	○	○	—	○	○	m ²		
表層	(車道・路肩部)	○	○	—	○	○	m ²		
基層	(歩道部)	○	○	—	○	○	m ²		
中間層	(歩道部)	○	○	—	○	○	m ²		
表層	(歩道部)	○	○	—	○	○	m ²		
アスカーブ		—	—	○	○	—	m		

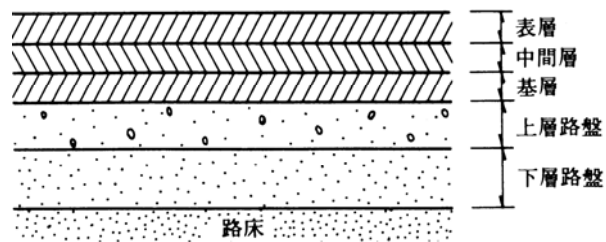
(2) 平均厚さ区分及び規格・瀝青材料種類区分

舗装の厚さ及び材料の規格（再生密粒 As13、再生粗粒 As20、再生 As 安定処理路盤等）、瀝青材料種類（タックコート、プライムコート等）ごとに区分して算出する。

材料の規格は締固め後密度も示す。

項目	平均厚さ
基層(車道・路肩部) ・ 中間層(車道・路肩部) ・ 表層(車道・路肩部)	25mm以上35mm未満
	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
	55mm以上65mm未満
	65mm以上70mm以下
基層(歩道部) ・ 中間層(歩道部) ・ 表層(歩道部)	25mm以上35mm未満
	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
	55mm以上65mm未満
	65mm以上70mm以下

(アスファルト舗装の構成例)



(3) 平均幅員区分

平均幅員による区分は、下記のとおりとする。

- ①1.4m 未満
- ②1.4m 以上

1.4 コンクリート舗装工

1. 適用

コンクリート舗装工（連続鉄筋コンクリート舗装工・転圧コンクリート舗装工は除く。）に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地、横目地の数量を区分ごとに算出する。
 なお、路盤の数量は、「1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「1.3 アスファルト舗装工」により算出する。
 また、舗装設計便覧（平成18年2月）第6章コンクリート舗装の構造設計に規定される標準的な目地間隔を有する場合は、目地数量の算出を要しない。

3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、施工方法とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

1) コンクリート舗装

区分 項目	施工 箇所	舗装厚	規 格 (材料)	施工方法	単 位	数 量	備 考
コンクリート舗装	○	○	○	○	m ²		
鉄			○		m ²		舗装100m ² 当たり
補強鉄筋鉄網			○		t		〃
補強鉄筋			○		t		〃

2) 縦目地

区分 項目	施工 箇所	舗装厚	規 格 (材料)	施工方法	単 位	数 量	備 考
タイバー	○	○	○	○	本		目地1000m 当たり
ねじ付タイバー			○		本		〃
クロスバー			○		kg		〃
チェアー			○		個		〃
目 地 板			○		m ²		〃
注 入 目 地 材			○		kg		〃
シ ー ル 材			○		kg		〃
木材又はL型 プラスチック材			○		m		〃

(注)舗装設計便覧（平成18年2月）第6章コンクリート舗装の構造設計に規定される標準的な目地間隔を有する場合は、上表の目地数量の算出を要しない。

3) 横目地

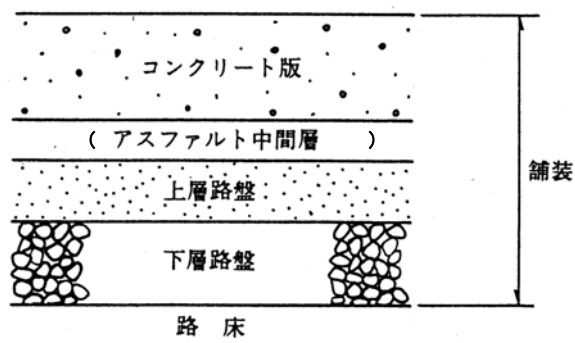
区分 項目	施工 箇所	舗装厚	規 格 (材料)	施工方法	単 位	数 量	備 考
スリップバー	○	○	○	○	本		目地1000m 当たり
キャップ付 スリップバー			○		本		〃
クロスバー			○		kg		〃
チェアー			○		個		〃
目 地 板			○		m ²		〃
注 入 目 地 材			○		kg		〃

(注)舗装設計便覧（平成18年2月）第6章コンクリート舗装の構造設計に規定される標準的な目地間隔を有する場合は、上表の目地数量の算出を要しない。

(2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(コンクリート舗装の構成)



(3) 施工方法区分

施工方法による区分は、下表のとおりとする。

施工方法	
機械施工	① 1車線施工
	② 2車線施工
人力施工	

1.5 転圧コンクリート舗装工

1. 適用

転圧コンクリート舗装工（RCCP）に適用する。

2. 数量算出項目

転圧コンクリート舗装の面積を区分ごとに算出する。
 なお、路盤の数量は、「1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「1.3 アスファルト舗装工」により算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、作業とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

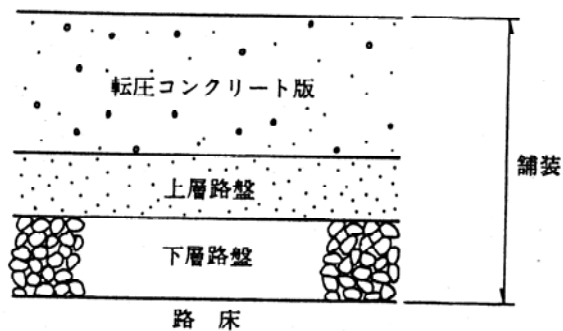
区分 項目	施工 箇所	舗装厚	規格 (材料)	作業	単位	数量	備考
転圧コン クリート舗装	○	○	○	○	m ²		

注) 1. 型枠が必要な場合は設置延長 (m) を算出する。

(2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(RCCP舗装の構成)



1.6 連続鉄筋コンクリート舗装工

1. 適用

連続鉄筋コンクリート舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地の数量を区分ごとに算出する。
 なお、路盤の数量は、「1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「1.3 アスファルト舗装工」により算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

1) コンクリート舗装

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	単位	数量	備考
コンクリート舗装鉄筋		○	○	○	m ²		
				○	t		舗装100m2当り

2) 縦目地

縦目地については、「第3編(道路編) 1.4 コンクリート舗装工」によるものとする。

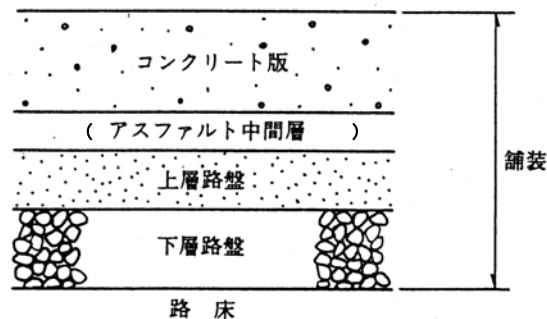
3) 横目地

横目地については、必要に応じて「第3編(道路編) 1.4 コンクリート舗装工」によるものとする。

(2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(連続鉄筋コンクリート舗装の構成)



1.7 排水性アスファルト舗装工

1. 適用

車道における排水性アスファルト舗装工事に適用する。
 なお、平均施工幅員が1.4m未満の場合において、平均厚さが35mm未満の場合及び50mmを超える場合、平均施工幅員が2.4m以上の場合において、平均厚さが35mm未満の場合及び65mm以上の場合を除く。

2. 数量算出項目

排水性アスファルト舗装面積、導水パイプ延長を区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

3. 区分

区分は、平均施工幅員、平均厚さ、導水パイプの設置の有無、片側車線数、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	平均 施工 幅員	平均 厚さ (mm)	導水パイ プの設置 の有無	片側車 線数	規格 (材料)	単位	数量	備考
排水性舗装・表層（車道・路肩部）	○	○	○	○	○	m ²		
導水パイプ		—			○	m		平均施工幅員 1.4m未満

(2) 平均施工幅員

平均施工幅員による区分は、下記のとおりとする。

- ① 1.4m 未満
- ② 2.4m 以上

(3) 平均厚さ区分

排水性アスファルト舗装面積を平均厚さごとに区分して算出する。

平均施工幅員	平均厚さ
1.4m未満	35mm以上45mm未満
	45mm以上50mm以下
2.4m以上	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
	55mm以上65mm未満

(4) 規格区分

材料の規格を示すとともに、締固め後密度も示す。

1.8 透水性アスファルト舗装工

1. 適用

歩道における透水性アスファルト舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

フィルター層面積、透水性アスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。
なお、路盤の数量は、「1. 2路盤工」により算出する。

3. 区分

区分は、平均幅員、平均厚さ、規格、締固め後密度とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格(材料)	平均幅員	平均厚さ	締固め後密度	単位	数量	備考
フィルター層	○		○		m ²		
透水性アスファルト舗装	○	○	○	○	m ²		

(2) 平均厚さ区分

透水性アスファルト舗装面積を平均厚さごとに区分して算出する。

(3) 規格区分

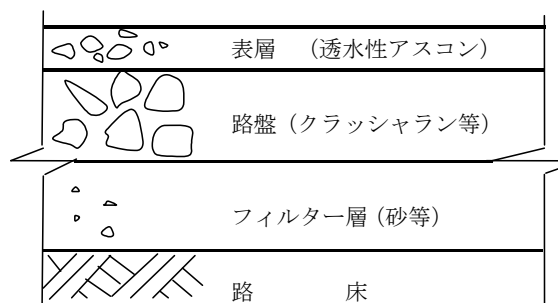
材料の規格を示すとともに、空隙率（フィルター層は除く）も示す。

(4) 平均幅員区分

透水性アスファルト舗装の平均幅員（W）による区分は、下記のとおりとする。

- ① $W \geq 1.4\text{m}$
- ② $W < 1.4\text{m}$

(透水性アスファルト舗装の構成例)



1.9 グースアスファルト舗装工

1. 適用

グースアスファルト舗装に適用する。

2. 数量算出項目

グースアスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、舗装厚、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	舗装厚	規格	単位	数量	備考
グースアスファルト舗装	○	○	m ²		
プレコート砕石	—	○	kg		
目地材	—	○	m		

(2) 舗装厚区分

グースアスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) プレコート砕石・目地材の数量は、グースアスファルト舗装100m²当たり必要量を算出する。

1.10 薄層カラー舗装工

1. 適用

薄層カラー舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

薄層カラー舗装面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・舗装厚とする。

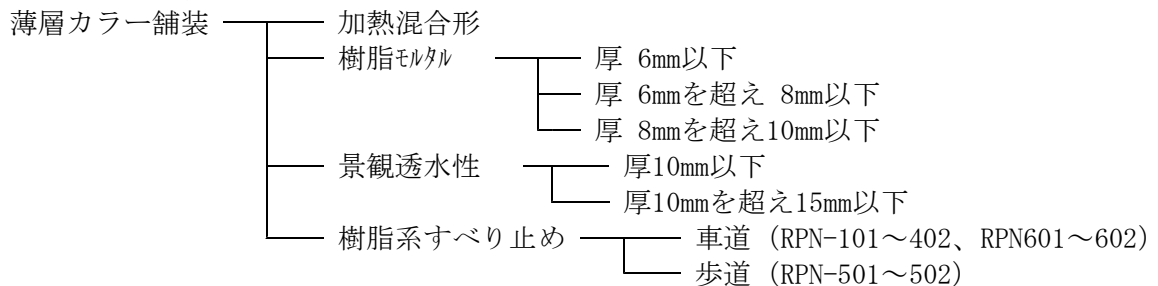
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格・舗装厚	単位	数量	備考
薄層カラー舗装	○	m ²		

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 薄層カラー舗装は以下の区分により算出する。



- (注) 1. 樹脂系すべり止め舗装の区分は、規格・仕様別に区分して算出する。
 2. 樹脂モルタルについては、一般部と階段ステップ部に区分して算出する。

(2) 加熱混合形薄層カラー舗装は、「第3編（道路編）1章舗装工 1.3アスファルト舗装工」による。

1.11 橋面防水工

1. 適用

シート系防水（アスファルト系）、塗膜系防水（アスファルト系）による橋面の防水工に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考
橋面防水	○	m ²		
ドレーン材	○	m		防水100m ² 当たり
目地材	○	m		〃

(2) 規格区分

シート系防水及び塗膜系防水ごとに区分して算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 施工面積には、端部処理の立上り面積は含めない。

1.12 踏掛版工

1. 適用

厚さ0.35m以上0.6m以下の現場打ちの踏掛版の設置に適用する。
ただし、主たる鉄筋が太径鉄筋（D38以上D51以下）の場合には適用しない。

2. 数量算出項目

コンクリート体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、コンクリート規格、鉄筋量、ゴム支承の有無、鉄筋材料規格・径とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	コンクリート規格	鉄筋量	ゴム支承の有無	鉄筋材料規格・径	単位	数量	備考
踏掛版		○	○	○	○	m ³		

- 注) 1. アンカーボルトは踏掛版受台にて施工されるため含まない。
2. 鉄筋量は、踏掛版1箇所当りの鉄筋量とする（スパイラル筋は含まない）。
3. 路盤材の敷設は含まない。
4. コンクリートのロスを含む。

(2) 鉄筋量区分

- ①0.08t/m³以上0.10t/m³未満
- ②0.10t/m³以上0.12t/m³未満
- ③0.12t/m³以上0.14t/m³未満
- ④0.14t/m³以上0.16t/m³未満
- ⑤0.16t/m³以上0.18t/m³未満
- ⑥0.18t/m³以上0.20t/m³未満
- ⑦0.20t/m³以上0.22t/m³未満
- ⑧0.22t/m³以上0.24t/m³未満
- ⑨0.24t/m³以上0.26t/m³未満
- ⑩0.26t/m³以上0.28t/m³未満

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 作業土工は、「第I編2章 土工」によるものとする。